

LAWSON

- ・脱炭素社会の実現を目指した地球環境を大切にすまちづくり
- ・地域社会に思いやりをもったまちづくり
- ・身近な暮らしの安全・安心に取り組むまちづくり
- ・次世代の子どもたちの育成を応援するまちづくり

「私たちは“みんなと暮らすマチ”を幸せにします」

これがローソングループのグループ理念です。私たちは創業以来、社会環境の変化に対応し、お客様のニーズにお応えしながら、地域に密着した取り組みを進めてまいりました。スローガン「マチの“ほっと”ステーション」の実現に向け、グループに関わる全員がそれぞれの業務で「圧倒的な美味しさ」、「人への優しさ」、「地球(マチ)への優しさ」の“3つの約束”をもとに、一つひとつの課題に取り組んでいます。

■脱炭素社会の実現に向けた取り組み 北海道産木材使用店舗

ローソンでは脱炭素社会の実現に向けて、省エネ機器の導入や物流の効率化などサプライチェーン全体での二酸化炭素排出量削減に努めています。さらに北海道のローソンでは、店舗内外装に北海道産木材を使う試みを進めています。札幌市内では、現在までに北海道産木材を使用した店舗を3店舗オープンしています。木材は成長の過程で二酸化炭素を吸収しながら成長するサステナブルな資源であり林業の活性化も期待されます。

(写真:北海道産木材を使用したローソン札幌平岡杜のみち店 令和5年9月)

■地元食材を使用した商品開発による地域の活性化

地元の食材を使った商品の販売により、地産地消と地産外消を進めて地域との結びつきを深めています。これまでに北海道産米を使用したおにぎりや北海道産小麦を使用したベーカリーなどを販売しています。2023年9月には北海道産ほたてを具材に使い厚岸産牡蠣醤油で味付けした「炙りほたて醤油漬け」おにぎりを限定発売しました。

また、できたての温かい商品をお客さまにお届けする店内調理サービス「まちかど厨房」の導入を進めています。北海道のローソン687店舗(2023年8月時点)のうち、552店舗に導入し、北海道産米「ふっくりんこ」をお店で炊いて作ったお弁当やサンドイッチ、お惣菜などを展開しています。北海道のご当地グルメであるジンギスカン、スープカレー、豚丼、ポークチャップなども定期的に商品化しました。

(写真下段:ご当地砂川ポークチャップ弁当 ※現在は販売を終了)

■支援を必要とする方への商品寄贈

ローソンでは食品ロス削減に繋がる社内でのフードドライブ活動等、商品を寄贈する取り組みを進めています。その一環として札幌市内でもフードバンク団体に食品・日用品など支援の品を定期的にお届けしています。これらの品はひとり親家庭など支援を必要とする方々の生活支援となるほか、そうした方々が社会との繋がりを感じて頂く役割も担っています。

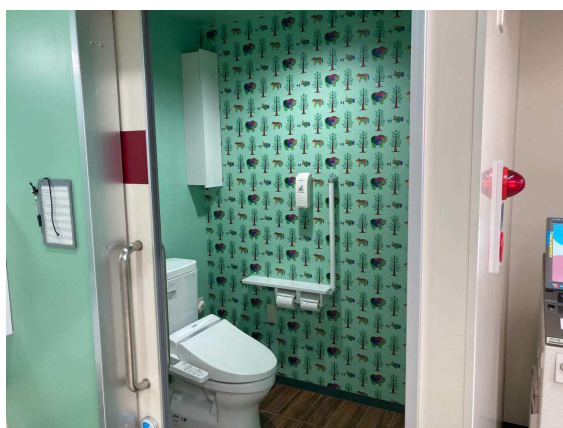
(写真:NPO法人フードバンク イコロさっぽろへの寄贈・令和5年2月)



■社会福祉法人との協力でアートトイレを展開

いつでも誰でも使えるトイレの大切さについて考えるきっかけづくりとして「社会福祉法人ともに福祉会」に所属するアーティストの皆さんにデザインをお願いし、2023年5月から札幌市内の2店舗（ローソン北20条東店・ローソン北26条東店）でアートトイレを展開しています。ローソンはいつでも気軽にトイレを利用したいというお客様の声を受け1997年にコンビニエンスストアチェーンで初めてトイレを開放しました。難病などで常にトイレの心配をされている方などにも安心してお使いいただけるよう、アートトイレの取り組みを通じて、コンビニトイレについてお客様に考えていただく機会に繋げていきたいと考えています。

(写真 左:ローソン札幌北20条東店 右:ローソン札幌北26条東店)



■募金を活用した緑化事業

「ローソングループ“マチの幸せ”募金」の一部を、「ローソン緑の募金」として寄付しており公益社団法人国土緑化推進機構を通じて学校緑化事業とボランティア団体が実施する森林整備活動を支援しています。

これまで札幌市内の小中学校5校での学校緑化事業と17件の森林整備活動を行ってまいりました。本年度も札幌市内での学校緑化事業を計画しています。

(写真:岩見沢市立北村小中学校での事業の様子 令和5年9月)



■セーフティステーション活動への参加

ローソンでは、一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会(JFA)のセーフティステーション活動に積極的に参加し、“安全・安心なまちづくり”への協力や、青少年が育つ環境の健全化への取り組みなどを推進しています。その活動の一環として、特殊詐欺防止への取り組みも進めています。

今年は10月末時点、札幌市内で10件の感謝状が贈呈されています。

(写真:ローソン札幌北25条西十六丁目店での感謝状贈呈の様子 令和5年7月)



■学校へ出向いての「出前授業」を実施

次世代の育成に繋がる活動として、札幌市内の中学校でローソン社員による「出前授業」を行っています。お申し出のあった学校のニーズに応え、これまで社会人としての体験をお話する授業や、職業体験会、環境やSDGsに関する授業を実施しました。

(写真:札幌市立柏丘中学校生徒さんとグループワークの様子 令和4年)





基本理念

地域愛が生み出す笑顔溢れるまちSAPPOROの創造

基本方針

- ・ 持続可能な組織の確立による組織拡大の実現
- ・ 豊かな生活基盤の構築
- ・ 人と活気が溢れる地域活性化の推進
- ・ つながりを生み出す共感の波及
- ・ 変動する時代に即した組織の再構築

◆北海道・札幌2030冬オリンピックパラリンピック 公開討論会

札幌市は、人口減少・少子高齢化、共生社会の実現、インフラ更新等の複数の課題を抱えており、北海道・札幌2030冬季オリンピック・パラリンピックの準備・開催を契機として、「世界に躍進する魅力あふれるまちづくり」への取り組みを加速させられると考えています。具体的には、世界中から訪れたいくなる憧れのまちにすべく、スキー場の魅力向上、冬季観光コンテンツの充実、ブランド力向上や周遊促進に向けた事業者連携の推進に取り組み、2030年の年間来客数2,000万人、札幌市内での総観光消費額8,000億円を目標に掲げています。このように、冬季オリンピック・パラリンピックの招致・開催は、中長期的に地域経済の活性化に資するものとうたわれています。もっとも、札幌市民から、費用や公正な大会の実現に関して反対意見もある状況です。2030年の冬季オリンピック・パラリンピックの開催地は、2024年7月までには決定される見込みとされており、市民の間でしっかりとした議論をすることが重要です。

そこで、冬季オリンピック・パラリンピックによるメリットとデメリットについて様々な考え・意見を示し、招致の是非、ひいては地域の活性化のために何が必要かを考える契機を創出することが必要と考えました。



◆さっぽろベビーファーストフェスティバル2023「アソビバ」

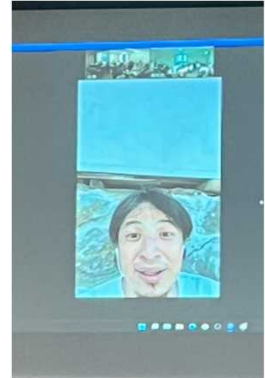
札幌青年会議所が取り組んでいるベビーファースト運動を周知するとともに、ベビーファースト宣言企業の取り組みを紹介することにより、ベビーファースト運動を市民に更に浸透させ、地域社会全体が子どもを産み育てやすい社会を目指しました。

また、子育て世代が多く集まるように、大きな公園のある商業施設にて、子ども向けの遊具やおもちゃを設置し、子育て世代向けに有用な情報発信ブースを出展しました。



◆2023 ITグロースアカデミー

札幌市でDXが進み、今後さらに需要が高まる中、IT人材の育成が行政、企業、民間団体で積極的に行われております。しかし、加速度的に技術革新が成される中、高度なITリテラシーを持った人材の育成は大きな課題となっております。そこで、未来を担う若手のITリテラシーの向上を図り、社会や企業の中軸となれる人材を育成する必要があると考え本事業を開催致しました。札幌市内の大学生と札幌青年会議所正会員を対象にアカデミーを開催し、ITツールの重要性和実践的な活用術をレクチャーするとともに、IT起業家による講演とセミナーを通じて、ITリテラシーの向上と経営意識の喚起を促しました。



◆プレマッチング交流会

札幌市内の生活困窮者を取りまく課題は多岐に渡ります。中でも子育て世帯の生活困窮者が抱える課題は特に深刻で、関係支援団体は様々な研修や情報発信を行っています。しかし、子育てとの両立で時間的・精神的な余裕がなく、労働意欲や労働時間の制限から自立に至らないというケースも少なくありません。そこで、困窮する生活の中で就労支援施設を利用する子育て世帯が自立に向けて意欲を向上させ、行動に移す契機が必要と考え本事業を開催しました。



株式会社セコマ
株式会社セイコーフレッシュフーズ・株式会社北燦食品

平成 23 年 7 月 26 日 締結 平成 28 年 3 月 8 日 改定



- ・持続可能な社会を実現するために環境に配慮したまちづくり
- ・地域との連携を深めた活気あふれるまちづくり
- ・障がい者の就労を支援するまちづくり
- ・次世代の子どもたちの成長を応援するまちづくり
- ・地域の笑顔を守る安心・安全なまちづくり

◆札幌市消防局様とオリジナルデザインの BOX ティッシュを発売◆

2023 年 7 月、札幌市消防局様とオリジナルデザインの BOX ティッシュを発売しました。消防車両をモチーフにしたデザインで、私たちの生活を支える消防車両の役割等をより多くの市民の皆様にご覧いただける機会に繋げるための取組です。また、8 月に札幌市で開催された「第 51 回全国消防救助技術大会」を記念し、さっぽろまちづくりパートナー協定に基づく連携事業として実施させていただきました。

- 品名：Secoma ティッシュ（200 組×5 個パック）
- 発売開始日：2023 年 7 月から順次販売開始（現在は販売終了）
- 販売店舗：セコマグループ小売店（セイコーマート、ハマナスクラブ、ハセガワストア、ハマナスクラブ、タイエー）



★天面の開け口部分には、大会のロゴと Secoma ロゴを掲載



◆救急隊員の方のコンビニエンスストア利用へのご協力◆

昨今の救急出動件数の増加に伴い、救急隊員の方が庁舎に戻り休憩（食事や水分補給など）をとりにくくなる状況が生じていることを踏まえ、店舗で小休憩をとることにつきご協力をさせていただきます。

【ご協力内容について】

店舗駐車場に停車し短時間（最大 30 分程度）の小休憩をとっていただきます。

※ 店舗駐車場で休憩をとる場合は、右図の表示を救急車内から外に向かって掲出して頂きます。

**食事・水分補給
コンビニ利用中**

救急隊員のコンビニエンスストアの利用にご理解をお願いします

- 出勤可能な体制を維持しています
- 必ず、手指消毒後に入店します
- クールダウンのために、感染防止衣やヘルメット、帽子を脱衣することがあります

【救急隊のコンビニ利用に関するお問合せ】
札幌市消防局救急課 (011)215-2070

◆札幌市民憲章 60 周年の取組に参画◆

札幌市民憲章 60 周年記念事業インスタグラム
フォトコンテストに参画させていただきました。



◆お客様参加型のリサイクル対象商品を拡大！◆

2023 年 7 月 17 日より「Secoma 北海道とよみ生乳 100%プレーンヨーグルト (400g)」(以下「Secoma ヨーグルト (400g)」)の紙容器を店頭で回収し、リサイクルする取組みを開始しました。セコマグループでは、2005 年より Secoma ブランドの牛乳パックを所定の枚数店頭にお持ちいただき、BOX ティッシュ 1 箱と交換するという「お客様参加型」のリサイクルの取組みを開始。その後 Secoma ブランドのジュースなどに対象の幅を広げ、今年さらにヨーグルト容器も対象としました。

現在、セコマグループが回収する紙パックの重量は年間約 300 トン(※1)、ヨーグルト容器を対象とすることで年間約 6 トンの増加を見込みます(※2)。

※1 2022 年実績 ※2 セコマグループ小売店舗における「Secoma ヨーグルト (400g)」の販売実績と当社の紙パック回収率から試算。



※写真はイメージです。

■ 商品名：Secoma 北海道とよみ生乳 100%プレーンヨーグルト (400g)

■ 価格：207.36 円 (8%税込み)

北海道北部沿岸の利尻礼文サロベツ国立公園の一部に属する自然豊かな酪農の町「豊富町」で生産される牛乳を使用し、セコマグループの豊富牛乳公社で製造しています。原料である豊富町産生乳の年間平均乳脂肪分は 3.9%と高いことも特徴的で、その生乳を 100%使用したヨーグルトは、コクのある味わいです。

◆「中央区複合庁舎整備事業」へ協力企業として参加◆

今年 1 月 26 日に起工され、2025 年に供用を開始される予定の中央区複合庁舎の整備事業に協力企業として参加させて頂きました。セコマグループの小売事業(物販)においては勿論、地域の方の安全安心につながる災害対応も含め少しでもお役に立てるよう準備を進めて参ります。

◆自治体の特産品を PR するキャンペーンの実施◆

北海道各地の産品を原料に使用した商品等を購入して応募する売場企画の景品として、各自治体の特産品やふるさと納税返礼品を採用。応募用紙や、特設サイトの告知媒体で PR しました。

【企画概要】

- ・実施期間：2023 年 7 月 31 日(月)～8 月 27 日(日)
- ・参加自治体：札幌市含め 32 自治体





- ・豊かなくらしと持続可能な環境保全型のまちづくり
- ・無限の可能性が広がる子どもたちの豊かな心を育てるまちづくり
- ・くらしの安心を願い助け合いの和を広げていくまちづくり
- ・地域で取り組むボランティアを大切にすまちづくり

1. トドックステーション（コミュニティスペース）

2016年度から宅配センター・店舗に「トドックステーション」の設置を開始しています。コミュニティの場を用意することで、子育て層を応援することが目的です。2016年5月に札幌中央センターに設置して以降、2023年10月時点で道内29か所にオープンし、多くの親子連れにご利用いただいております。単なるスペース提供だけではなく、フリーマーケットや絵本の読み聞かせ、料理教室の開催など地域のコミュニティスペースとして、みんながつながる「地域ひろば」を目指しています。



2. えほんがトドック

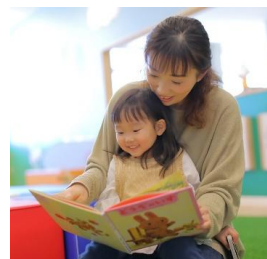
2010年度から、読み聞かせを通じた親子のふれあいを目的として、1～2歳のお子さま(またはお孫さん)がいる子育て世帯を対象に絵本をお届けしており、2023年度から4冊だった配本を8冊に倍増させました。また、絵本のよさをもっと知っていただき、よみきかせができる人を増やすため「えほんがトドックよみきかせ隊認定講座」のほか、道内の保育園・幼稚園、子育てセンターを訪問し、絵本の楽しさを知ってもらう「えほんわくわくキャラバン」も実施しています。



2023年4月1日現在
1～2歳のお子さまに

**絵本を8冊
プレゼント!**

お申込み期間
4月1日(土)～11月30日(木)



3. ファーストチャイルドボックス&コープチャイルドボックス

2018年4月から、第1子誕生予定の方へ「ファーストチャイルドボックス」を贈る取組を始めました。ベビーケアアイテムやベビー服など、子育てに欠かせないものを初めて出産される方に贈る子育て支援であり、フィンランドで実施されている「母親手当」の取組をモデルに北海道で実現したものです。現在までに3万人を超える方にお申込みをいただいております。さらに、組合員さんのリクエストにお応えして第2子以降のご出産の方への贈り物「コープチャイルドボックス」の取組を2019年10月より開始しています。

こちらは、出産してすぐに必要な日用品をお届けしています。コープさっぽろはこの取組をはじめ、マタニティコンサートや離乳食教室など、あらゆる子育て支援を展開しています。



ファーストチャイルドボックス



コープチャイルドボックス

4. 移動販売事業と夕食宅配

2010年度から買い物が困難な地域のくらしを支える移動販売車事業を開始しました。コープさっぽろの店舗から約1,000品目の商品を積み、毎週決まった曜日、コース、時間に運行しています。現在は全道137市町村を96台の車両が走り、約12,000世帯の方に利用いただいています。札幌市では約20か所の高齢者施設へも訪問しています。一部地域では、自治体やJA、社会福祉協議会と連携して地域における買い物困難者対策に取り組んでいます。

また、夕食宅配は専属の管理栄養士が監修したおいしい手作り料理のお届けと見守りを行っています。現在196台の車両で全道約16,788人に年間197万食をお届けしています。



5. 高齢者見守り活動

宅配システム「トドック」や配食サービスなどで職員が組合員のお宅にお伺いする機会を活用し、高齢者の安否確認など見守り活動を行っています。2013年度からは「遠くに住んでいる家族に毎週コープの商品を届けてあげたい」という組合員の声をもとに「見守りトドック」を開始しました。注文者とは異なる方に商品をお届けすることができ、同時にお届け先の状況を注文者に毎週連絡する「電話連絡サービス」を加え、見守り活動を強化させています。

また、緊急の際の連絡体制をスムーズに行えるように各市町村と「高齢者見守り協定」を175市町村と締結し、年間約160件の見守り実績があります。

6. 北海道SDGs推進プラットフォーム

2019年7月に、北海道で中核的に「持続可能な開発目標(SDGs)」を推進することを目的として「北海道SDGs推進プラットフォーム」を設立しました。このプラットフォームに17団体からなるSDGs推進委員会を設置し、プラットフォーム会員に向けたSDGs研究会を定期開催しております。札幌市からもSDGs推進委員に就任していただいております。毎年2回、先進事例報告の場としてSDGs研究会を開催し、SDGs推進の底上げに寄与しています。

また、2021年から「Hokkaido海のクリーンアップ大作戦！」と題して道内の海岸清掃を実施しており、今年は10,052名の方に参加いただき、全道46カ所で海岸清掃を行いました。次年度以降も規模を拡大して実施することとしています。





- ・ 食の大切さと尊さを伝えるまちづくり
- ・ 四季の変化を感じた、スポーツを通じたまちづくり
- ・ 歴史を重んじた地域連携のまちづくり
- ・ さっぽろの魅力を伝えるまちづくり

「雪印メグミルクスポーツ振興寄付金」に伴う子ども用ヘルメットとゼッケンを贈呈

当社は2021年から2030年の10年間、「雪印メグミルクスポーツ振興寄付金」を札幌市へ寄付することとしていますが、6月30日に札幌市役所において佐藤社長から秋元市長にその一部の寄付金を利用した子ども用ヘルメットとゼッケンを贈呈しました。

佐藤社長は札幌市との各種事業の取組みに対するお礼と本年1月に新たに締結した「健康さっぽろ21の推進に関する包括的連携協定」の一つとして冬季スポーツの振興に取り組む中で「当社との連携事業以外にも子ども達を育成する様々なイベントご利用ください」と挨拶しました。あわせて、スキー部アドバイザーの原田担当部長から、雪印メグミルクスポーツ振興寄付金は当社ジャンプ選手の成績連動型であるため、更なる活躍により、多くの寄付金を贈ることと、子ども達の「夢の実現」のために全力で頑張ることを約束しました。

秋元市長から各種寄付のお礼と子ども達のスポーツの育成について冬季スポーツだけでなく、ジャンルを超えて雪印メグミルクスポーツ振興寄付金を活用させていただくと謝辞がありました。



「キッズスポーツ体験会」を開催（雪印メグミルクスポーツ振興寄付金事業）

札幌市内の小学1～3年生80名を対象に「キッズスポーツ体験会」を当社スキー部選手と一緒にウォーミングアップやストレッチ、バランス&体幹トレーニング等で筋肉をほぐした後、選手が一人ずつ入った各チームに分かれ、チーム対抗バリエーションリレーを行いました。

「カエル跳び」や「ハードルぐり」を取り入れたリレーや、「ガチ走り」リレーなど白熱した戦いとなり、子供たちや保護者からも大きな声援が飛び交っていました。最後の「少しでもジャンプ体験コーナー」では、選手のデモンストレーションジャンプを子供たちは真剣な表情で見ながら歓声を上げ、参加した子供たちも「ジャンプ、テレマーク着地体験」など選手と共に楽しくスポーツを体験しました。

また、保護者を対象として開催した「食育講話」では、管理栄養士より「食事の大切さ」と「栄養バランス」について講話しました。





札幌市との「さっぽろウェルネスパートナー協定」の締結について

当社は2023年1月12日に札幌市と「健康さっぽろ21の推進に関する包括的連携協定」を締結し、札幌市健康づくり基本計画「健康さっぽろ21」に基づき、相互協力のもと札幌市民の健康増進を図ってまいりました。

この度、札幌市は「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン」を策定し、今後10年間の重点活動の一つに「ウェルネス(健康寿命延伸)」を定め、札幌市保健所内に推進部署(ウェルネス推進担当)を新設しました。

現協定の更なる充実・強化を図る為、新たな協定「さっぽろウェルネスパートナー協定」に移行し、8月7日に協定の調印を致しました。

引き続き、札幌市健康セミナーへ講師派遣、小・中学校へ食育出前授業、スポーツ振興寄付金の活用による市民の健康寿命延伸の取組みを継続いたします。



第13回雪印メグミルク杯ジュニアサマージャンプ大会を開催しました

8月2日(水)札幌市荒井山シャンツェにて「第13回雪印メグミルク杯ジュニアサマージャンプ大会」を開催しました。

大会には全国各地域からの小学1年生から中学3年生までの67名の選手達が、北海道に集結しました。北海道シリーズ5大会(朝日町2試合、余市町1試合、札幌市2試合)最終戦となる本大会では、総合優勝を目指し真夏の札幌でジュニアジャンパーによる熱戦が繰り上げられました。

特別企画として広報IR部とスキ一部岡部総監督が参加したジュニアジャンパーや来場者にオンデマンドで配信する「スポーツ食育セミナー」について説明を行いました。子ども達も「食」について熱心に質問していました。

